



特定医療法人社団

鵬友会 ニュースレター

鵬友会ホームページ アドレス
<http://www.hoyukai.org/>

第124号

発行:2016年8月15日

発行責任者:

特定医療法人社団 鵬友会

地域との連携を重点として

新規業務を始めました

横浜ほうゆう病院 看護部長 原科 美津枝



平成28年4月より、横浜ほうゆう病院の看護部長を拝命させていただきました原科です。私は平成17年4月に小児専門病院から横浜ほうゆう病院に就職いたしました。それから12年あまり経ちました。その間、場違いの分野からの転職でしたので、「私に出来るか」「やめたい」など悩みの日々でした。その私が長い期間続けられたのは、多くの諸先輩、周囲のスタッフの励ましでした。特に認知症の方々との関わりは私の悩みに安らぎとやる気を与えてくれました。例えば、物忘れの症状がある患者様に「あなたを待っていたの」とやさしい言葉をかけられ、また、在宅で周囲の方に迷惑をかけて入院した方と真剣に話し合い「迷惑をかけないようにする」と約束し、無事に自宅に帰れた患者との関わりは「私にも出来ることもある」と思わせてくれた出来事です。

超高齢社会の現在、認知症は注目を浴びております。「新オレンジプラン」も発表され、認知症の方は地域で見守る体制が強化されています。そこで、横浜ほうゆう病院としても役割を見直し、在宅での生活支援と地域との連携を重点として活動をする事にしました。その中で新規業務を始めましたので紹介させていただきます。

1. 介護施設職員対象のセミナーの開催

当院に受診、入院される多くは在宅や老人保健施設からです。特に施設で認知症の症状の対応が困難でご苦労されている話を耳にします。そこで、私たちの持っている認知症の対応のノウハウを介護されている方々と共有し、また、日々悩んだりしている

ことを話し合える場を提供できたらと考えました。

「認知症ケア研修 みんなで考える認知症の人のケア」セミナーを開催することにしました。8月6日に第1回を行い、11月には2回目を計画しております。

2. 精神科訪問看護

今年の5月号のニュースレターで、当院の日野博昭院長が紹介しているように「精神科訪問看護」を10月の始動に向けて現在準備中です。精神科訪問看護を開設した経験のある看護師を新たに迎えて2人の利用者を対象にプレ活動中です。

3. 認知症出前講座

今まで、地域への認知症の普及を目的に、認知症の講座を行なってきました。今年からは「認知症出前講座」と評しまして地域への認知症の理解、対応の方法、受診や相談の方法など医療から看護、介護まで網羅して講座を行ないます。ご希望の施設や町内会など場所や規模は問いませんのでご相談ください。

3点の新規事業について説明させていただきました。以前から行なっている「看護相談外来」「認知症家族講座」なども継続しております。日野院長が「スピーディーな対応」と方針を示されたように看護部もスピーディーな対応ときめ細かな対応が出来るように邁進していきたいと考えております。看護部長としては1年目の新人です。周りの方々のお力をお借りしてがんばって行きたいと思っています。よろしくお願いいたします。

第13回幹部研修会

平成28年7月22日、箱根ホテルの会議室に鵬友会の幹部職員59名が参集し、幹部研修会が開催されました。

開会の挨拶では、池島理事長が「私が皆さんに対して要望することはただ一つ、自分の職域、自分の今いるポジションに対して責任を持ち、自分の職場をより良くすることを考えてもらいたい。今日は、この後の各施設長の話しを聞いたうえで、自分の施設と他の施設と、どう機能し合えるかを考え、また、多施設・他職種の方々と交流を深め、自分の仕事に生かしてもらいたい。」と述べました。

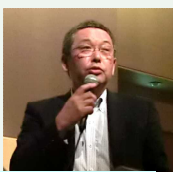
続く池島常務理事の講義では【幹部職員の心得】として、各管理職には強いリーダーシップでチームを引っ張っていくタイプもいれば、調整型、協調型でリーダーシップを発揮する人もいます。それぞれのタイプによっては、その管理職の心得も変わってくるものですが、全てのタイプに共通する管理職の心得があり、それがベースとなっていることが多々あることを述べ、その共通の心得を紹介し、幹部職員を鼓舞しました。



池島 理事長



池島 常務理事



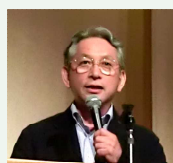
末盛 院長



麦倉 副院長

◆湘南泉病院【急性期一般病院】：末盛院長、麦倉副院長

末盛院長より、湘南泉病院の現況報告として、看護基準の厳格化が進み、DPCの調節係数も引き下げられ、昨年と同じことをやっても同じような収益は上がらない厳しい環境であることを述べ、その環境を打破する為に、年々急性期医療の充実を進めていることを説明しました。今年は、地域包括ケア病床を9床から15床へ増やし、外科の充実として、週2日の消化器外科の腹腔鏡手術、週1日の脳神経外科の正常圧水頭症の手術、頭痛外来の開設、内分泌・代謝内科の充実として週3日の専門医招聘、麻酔科常勤医の招聘により週4日の手術が可能になり、ペインクリニックの開設、また、精神神経科、循環器内科の外来も増やしました。その後、法人内の連携に関しての内容も説明しました。続く、麦倉副院長より、湘南泉病院で力を入れている内視鏡部についての紹介があり、昨年度は検査内視鏡1471件、治療内視鏡168件の件数があったことと、外部への講演会活動、内視鏡検査予約の方法を説明し、1年前より消化器内科の常勤医が5名、非常勤医が3名在籍しており、ほぼ連日、緊急の上部内視鏡、下部内視鏡、胆膵内視鏡の施行できる施設に成長したことを述べました。



福田 院長

◆新中川病院【療養型病院】：福田院長

福田院長は、冒頭に療養型病院は難しい時代に入っていることを述べ、医療を取り巻く環境の急激な変化により、患者さんを受け入れる受け皿が幅広くなくなったこと、終末期医療に対する考え方も変わってきていること、また、医療政策上の誘導、急性期病院の在院日数の短縮化、地域連携の進展などにより、療養型病院に入院する患者さんは減少し、入院患者層も高齢者で重症度の高い方や複雑な病気をもっている医療度の高い方などが主になっていることを挙げました。そういった時代の変化に対応すべく、急性期の湘南泉病院より、高度の医療を受けた患者さんが多く転院してくるから、転院時に、患者さんにとって環境も扱いも医療の質も落ちたのではだめであり、その段差をなくす整備をしていくことを説明し、今年は、病院機能評価を取得したこと、呼吸器を導入して、慢性期の呼吸器が必要な方を積極的に受け入れるようにしたこと、4月より新しい常勤医に来ていただいたことを挙げ、最終的には、湘南泉病院との段差をなくして、地域の方々に望まれる病院を目指していくことを述べました。



日野 院長

◆横浜ほうゆう病院【認知症専門病院】：日野院長

ここ数年、横浜ほうゆう病院の業績は悪い状態が続いており、こういう状態を今後も続けていくわけにはいかないので、理事長の協力を仰ぎながら今後の方策を練っていることを述べました。昨年は、9月をピークに平均病床数が下がり続けたことを挙げ、原因として、冬場に多くの患者さんが退院したこと、年末年始に施設へ行かれる患者さんが増えたこと、もう一つは、精神保健福祉法で定められた医療保護入院は、法改正により、入院された時に入院の期間を設定して、期間が超える時は退院支援委員会を開いて、どうして退院できなかったかを検討して次の退院日を決め、それに向けて動くというような流れになったことも要因であると説明しました。今年は各方面への営業活動を例年以上に積極的に行い、入院患者さんを増やしていかないといけないと述べました。



根本 施設長

◆阿久和鳳荘【介護老人保健施設】：根本施設長

わが国の制度は、医療保険と介護保険で成り立っていますが、現在、医療保険と介護保険は別物で考えられています。しかし、この両方を持ち合わせているのが介護老人保健施設です。老健の利用目的としては、急性期病院等から在宅までの「架け橋入所」・レスパイト・緊急入所（ショートステイ）・看取り・終生入所（特養待機）が挙げられ、老健の武器としては、在宅中心に考えてリハビリを行っていくことであると述べました。また、現在の制度では、どれだけ在宅へ帰したかによって、収入に影響がでるようになっており、その基準が在宅復帰率30%を超えるかどうかで左右されます。鳳荘は26年度から比べ、年々上がっておりますが、職員一人ひとりが利用者さんご家族のニーズに合わせた動きを積極的にやった結果であります。そういったことが実ることによりリピーターが増え、信頼して利用していただける。そして自然と在宅復帰率も上がってくると考えています。と述べました。